

---

---

# 第4次さいたま市一般廃棄物 処理基本計画の策定について

---

---

**環境局 資源循環推進部**

**資源循環政策課**

## ■ 審議事項

「第4次さいたま市一般廃棄物処理基本計画」の策定に向けた方向性について

## ■ 説明の流れ

1. これまでの検討経過

2. 第3次基本計画の取組

2-1 さいたま市一般廃棄物処理基本計画の位置付け

2-2 第4次基本計画策定の背景

2-3 第3次基本計画の概要

2-4 第3次基本計画の進捗状況（中間目標達成状況）

2-5 第3次基本計画の課題（人口推計・排出見込量の乖離）

2-6 第3次基本計画の課題（家庭ごみの有料化）

3. 第4次基本計画の策定

3-1 第4次基本計画の方針

3-2 第4次基本計画の施策体系

4. 今後の進め方

# 1. これまでの検討経過

平成28年度まで

- 平成24年3月 第3次さいたま市一般廃棄物処理基本計画公表
  - ・計画期間：平成24年～平成33年（中間目標年度：平成28年度）
- 平成28年度 さいたま市廃棄物減量等推進審議会において、計画前期（H24～H28）の「総括・中間評価」及び「第4次基本計画骨子の策定」を実施。

## 【さいたま市廃棄物減量等推進審議会】

- 委員長 秋元智子（特非）環境ネットワーク埼玉 理事
- 委員構成 学識経験者、市民代表、関係団体代表、埼玉県
- 開催実績 平成28年度に4回開催

平成29年度

- 平成28年度に「さいたま市廃棄物減量等推進審議会」で策定した「第4次基本計画骨子」に基づき、下記体制で「計画素案」を審議し、とりまとめを行った。

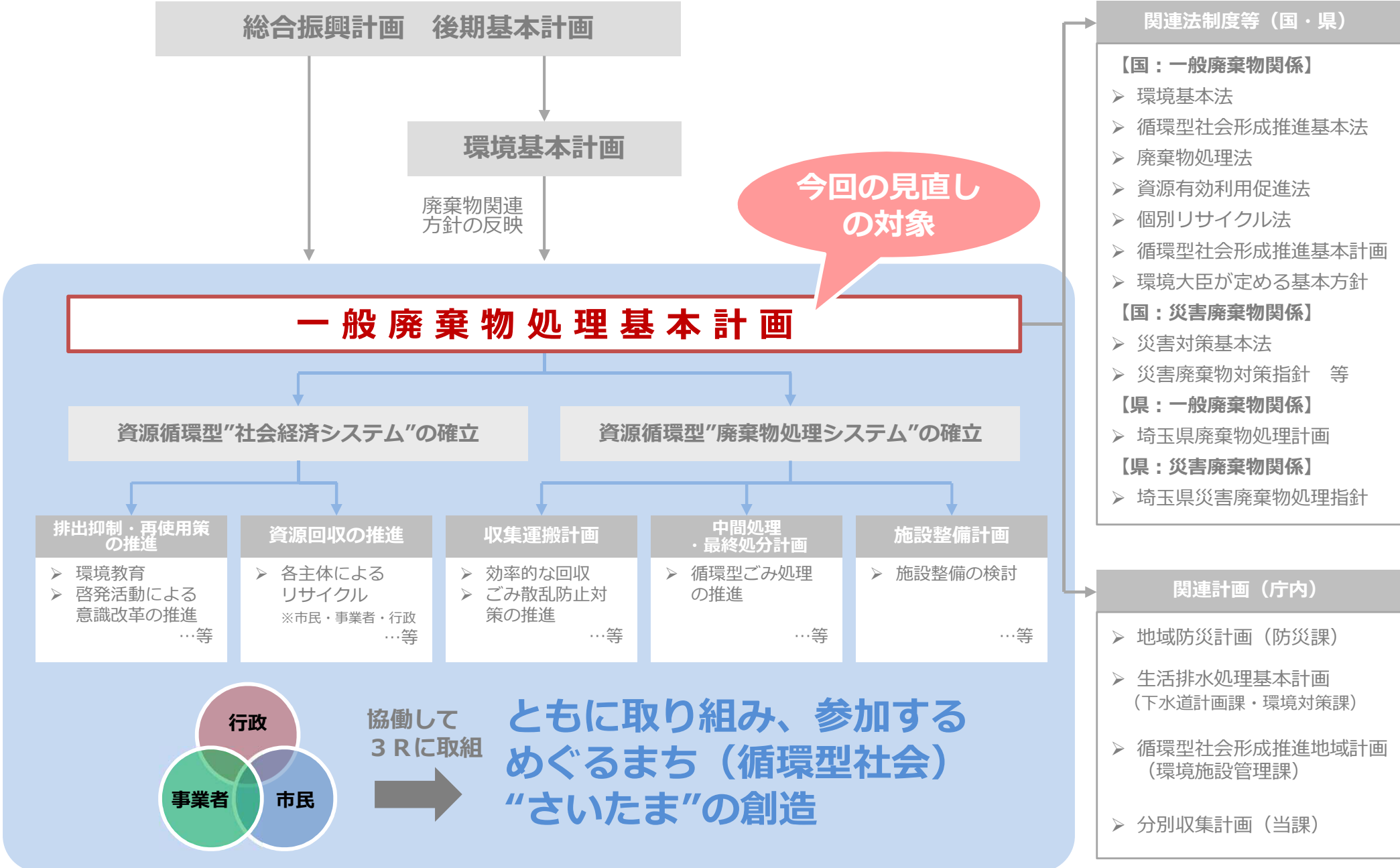
## 【さいたま市廃棄物減量等推進審議会】

- 委員構成 同上
- 開催実績 計3回

## 【さいたま市一般廃棄物処理基本計画等局内検討委員会】

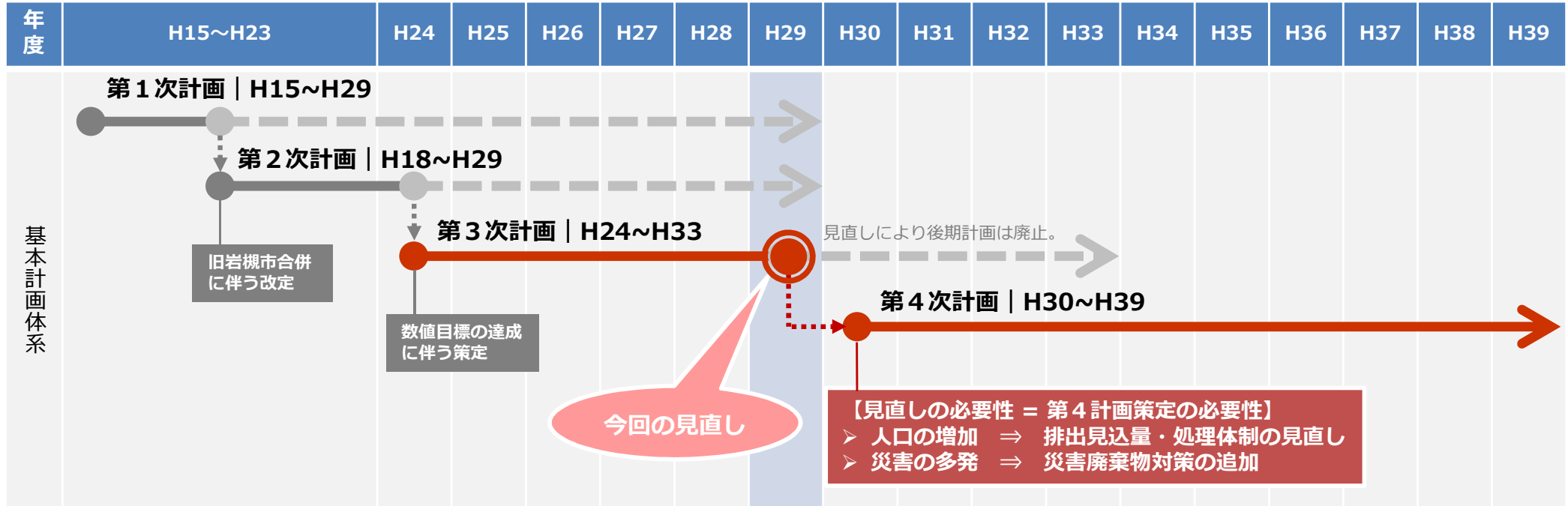
- 委員構成 局内関係課
- 開催実績 計4回（委員会の下部組織「部会」含む。）

# 2-1. さいたま市一般廃棄物処理基本計画の位置付け



# 2-2. 第4次基本計画策定の背景

## 1 第4次基本計画策定の背景



### ■ 計画見直しの大きな要因

#### ① 推計に反した市内人口の増加

##### 【計画前期(H24~H28)】

- ▶ 「ほぼ横ばいで推移する」とした第3次計画の人口推計に反して、約36,000人増加（約2.9%増）。

##### 【H28実績】

- ▶ 推計値より約56,000人増加。

※ 住民基本台帳人口(各年10月1日現在)

#### ② 相次ぐ大規模災害の発生

- ▶ 近年、自然災害が多発・激甚化し、各地で集中豪雨や地震により膨大な災害廃棄物が発生。
- ▶ 国では指針を改正し、「災害廃棄物処理計画の策定」を都道府県、市町村に義務付けている。

※ 「廃棄物の減量その他その適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針」(H28.1.21施行)

#### 今回の見直し（第4次基本計画の策定）

- ▶ 左記①、②の要因により、計画を根本から見直す必要が生じたことから

「第3次計画の**改定**」  
ではなく、  
「第4次計画の**策定**」  
に着手する。

# 2-3. 第3次基本計画の概要

## ■ 基本目標

▶ ともに取り組み、参加する めぐるまち（循環型都市）“さいたまの創造”

## ■ 計画期間

▶ 平成24年度～平成33年度（10年間）  
 ※ 前期：H24～H28 後期：H29～H33

## ■ 施策体系

### 基本的方向性1 資源循環型“社会経済システム”の確立

#### 基本方針1 ごみの発生抑制・再使用策の推進（リデュース・リユース）

- ① 環境教育と啓発活動による意識改革の推進
- ② ごみの発生を抑制する活動の推進
- ③ 再使用及び再生品利用の推進

#### 基本方針2 資源回収の推進（リサイクル）

- ④ 市民が進めるリサイクル
- ⑤ 事業者が進めるリサイクル
- ⑥ 行政が進めるリサイクル

### 基本的方向性2 資源循環型“廃棄物処理システム”の確立

#### 基本方針1 ごみの適正処理の推進

- ① 収集運搬計画（効率的なごみ回収）
- ② 中間処理・最終処分計画（安全・適正なごみ処理）

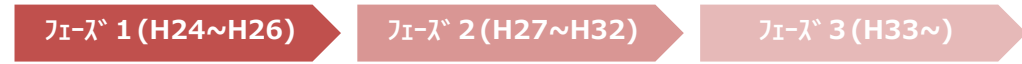
#### 基本方針2 適正な施設整備

- ③ 施設整備の検討
  - ・新規焼却施設の整備計画（桜環境センター、サマルヒ礼拝センター）
  - ・資源化施設の整備計画
  - ・民間を活用したバイオマス系廃棄物処理システムの普及促進等

## ■ 数値目標

指標	基準年 (H22)	中間目標 (H28)	最終目標 (H33)
市民1人1日あたりの総排出量	944 g/人・日	897 g/人・日以下	850 g/人・日以下
		5%減(H22比)	10%減(H22比)
市民1人1日あたりの家庭系ごみ排出量 (資源物除く)	549 g/人・日	522 g/人・日以下	494 g/人・日以下
		5%減(H22比)	10%減(H22比)
最終処分比率	7.4%	6%以下	4%以下

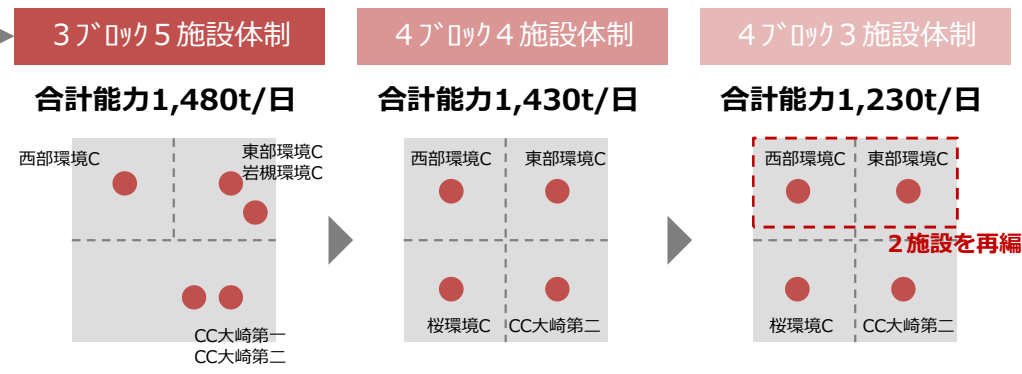
## ■ 計画のロードマップ



基本的方向性1に基づく施策の実施

中間目標(H28)・最終目標(H33)の達成

- ① 市民1人1日あたりの総排出量
- ② 市民1人1日あたりの家庭系ごみの排出量（資源物除く）
- ③ 最終処分比率



# 2-4. 第3次基本計画の進捗状況（中間目標達成状況）

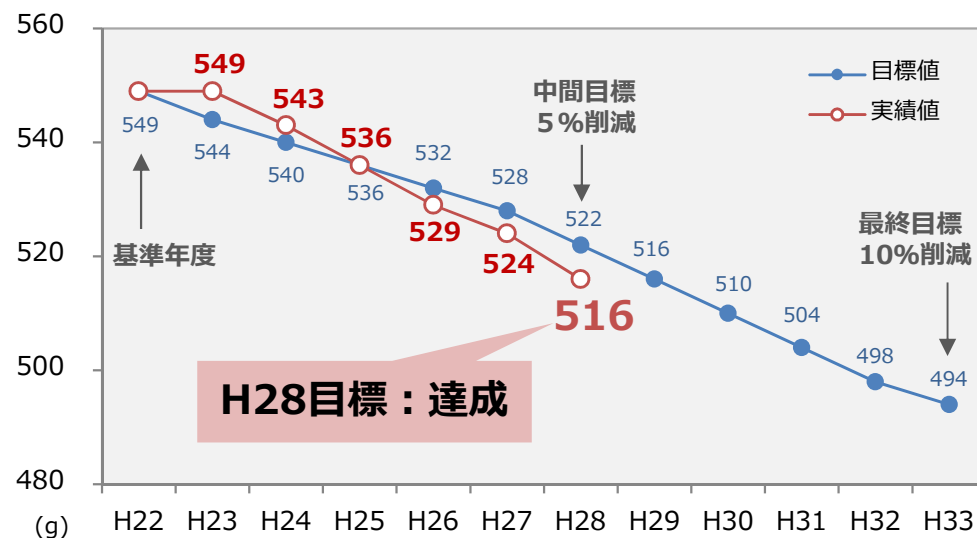
## 1 中間目標の達成状況について

### ■ 総括

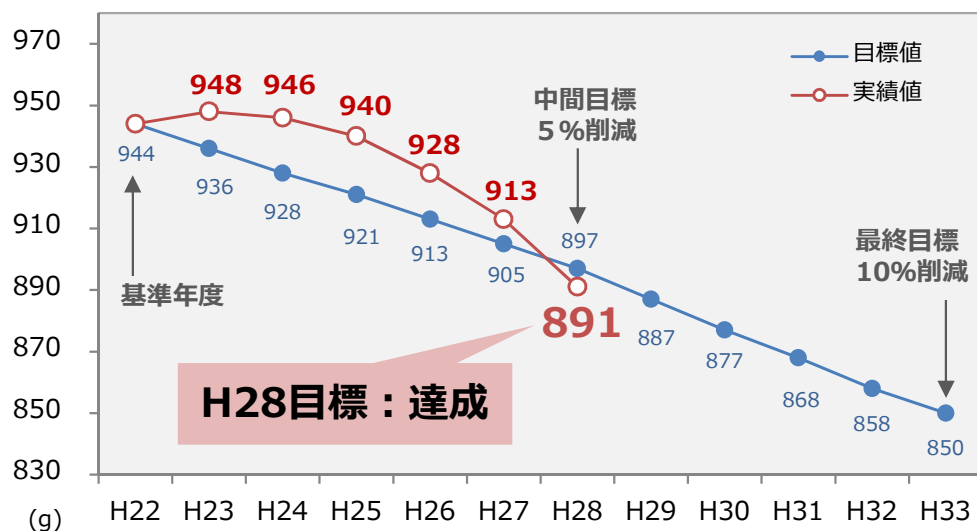
指標	中間目標 (H28)	H28実績
市民1人1日あたりの総排出量	897g/人・日以下	891g/人・日
市民1人1日あたりの家庭系ごみ排出量 (資源物除く)	522g/人・日以下	516g/人・日
最終処分比率	6%以下	3.6%

**中間目標 (H28) は、3指標すべて達成している。**

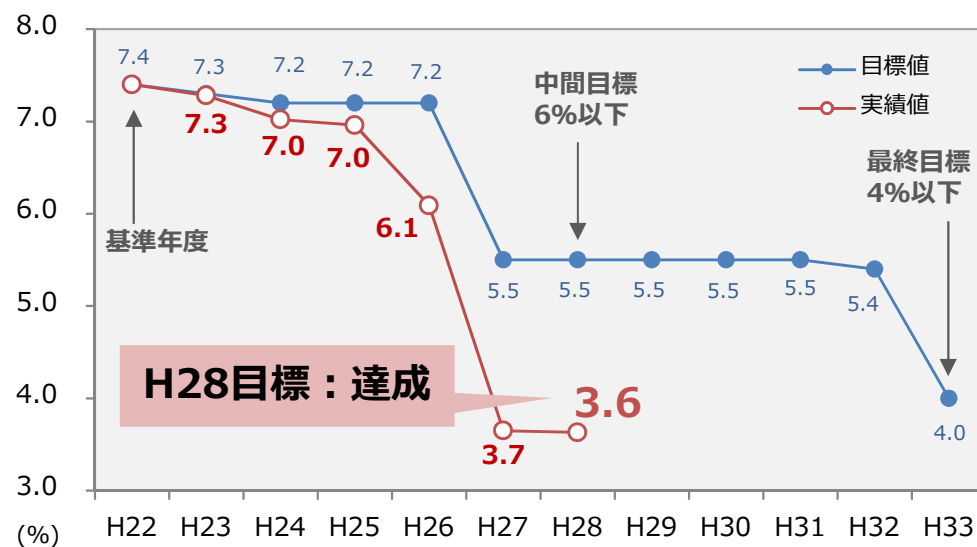
### ■ 数値目標② 市民1人1日あたりの家庭系ごみ排出量（資源物除く）



### ■ 数値目標① 市民1人1日あたりの総排出量

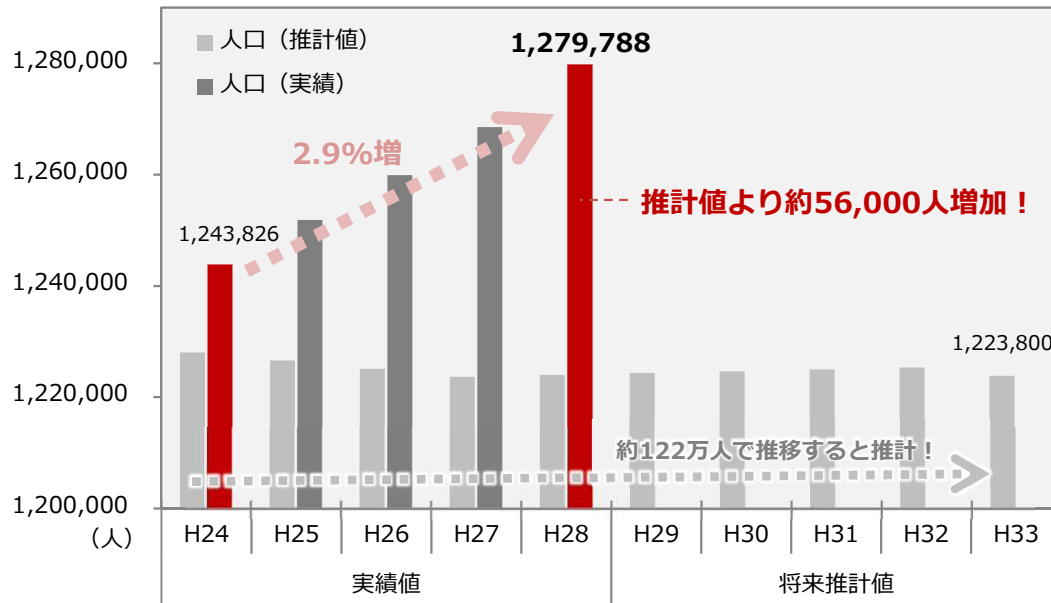


### ■ 数値目標③ 最終処分比率



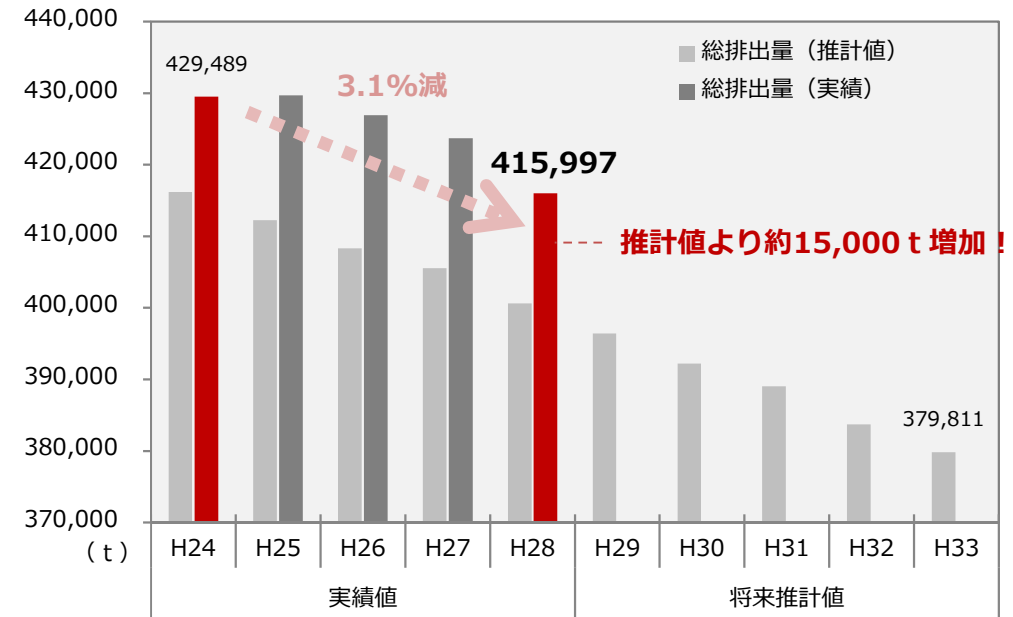
# 2-5. 第3次基本計画の課題(人口推計・排出見込量の乖離)

## ■ 第3次基本計画における「人口」の推移



人口推計：「コンパクトなまちづくりに対応した土地利用に関する調査 報告書」平成22年3月 さいたま市  
人口実績：住民基本台帳人口（各年10月1日現在）

## ■ 第3次基本計画における「総排出量」の推移



## ■ 課題

- 第3次基本計画では「市内人口は今後10年間ほぼ横ばいで推移する」としていたが、計画前期(H24～H28)に約36,000人増加（約2.9%増）。
- 人口の増加に伴い、総排出量もH28実績で推計値より約15,000 t 増加。
- 以上のことから、計画を見直す必要がある。

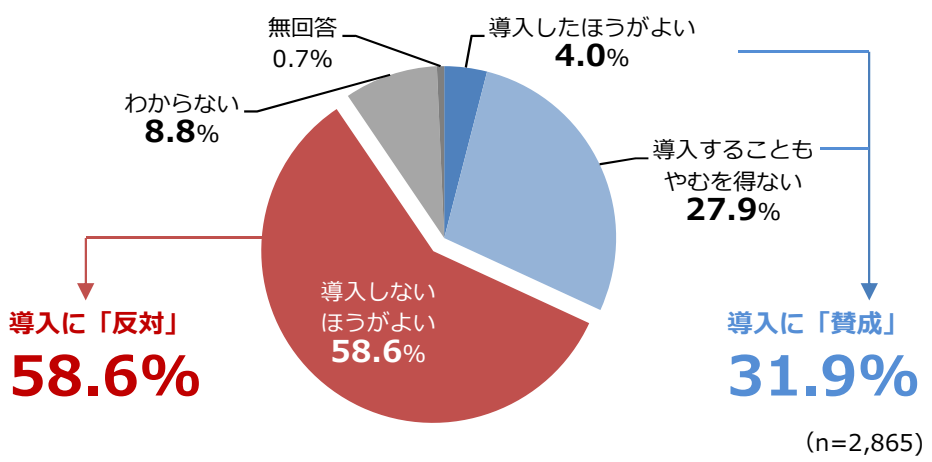


# 2-6. 第3次基本計画の課題（家庭ごみの有料化）

## ■ 有料化に関する議論の経過

- H24.3月 第3次基本計画策定時**
  - 計画前期（H24～H28）は有料化以外の減量施策を優先。
  - 中間目標の達成状況によっては、計画後期（H29～H33）に市民意見等を勘案しつつ、有料化を再検討する。
- H27.8月 行財政改革公開審議**
  - 有料化は最終手段としながらも、ごみの減量が無料収集の継続には不可欠であることを市民にアピールすること。【指摘事項】
- H29.3月 さいたま市廃棄物減量等推進審議会**
  - 中間目標を達成できる見込みであり、次期計画策定に際しては、「有料化以外の施策」を優先的に検討していくこととする。

## ■ 家庭ごみの有料化に対する市民意識

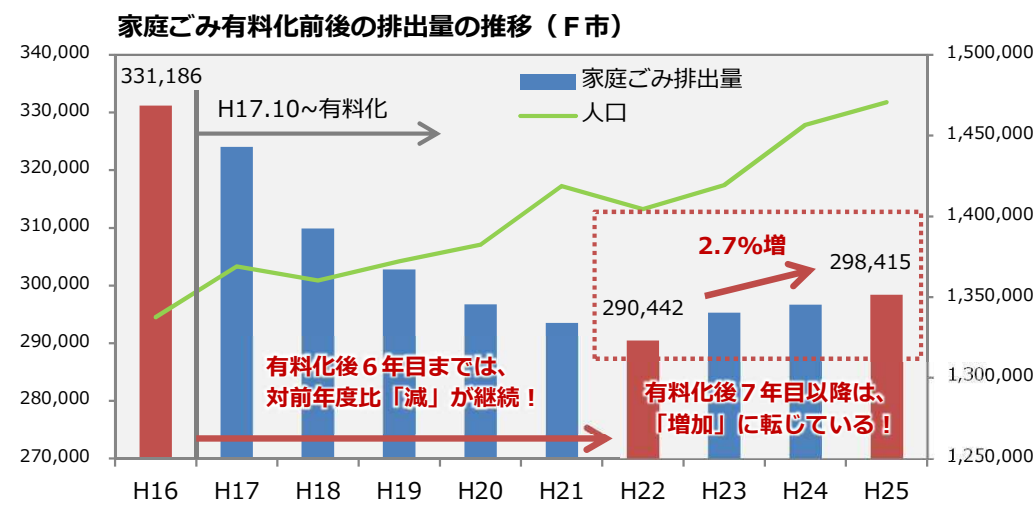


出典 | 「さいたま市一般廃棄物処理基本計画改定に伴う市民意識調査結果」 H28.8月

**反対(58.6%) が 賛成(31.9%) を大きく上回る。**

## ■ 有料化による懸念事項：慣れによる排出抑制効果の減少

➢ 有料化により、一時的に排出抑制が期待されるが、時間の経過により、排出抑制意識が希薄になるため、効果が減少。



出典 | 環境省「一般廃棄物処理実態調査結果」を元に作成  
[http://www.env.go.jp/recycle/waste\\_tech/ippan/stats.html](http://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/ippan/stats.html)

## ■ 有料化に関する今後の方針

- ① 中間目標の達成状況**  
⇒ 3つの指標すべてで、達成できている。
- ② 市民意見**  
⇒ 市民意識調査では、**反対が賛成を大きく上回っている。**



第4次基本計画の計画前期（H30～H34）においては、

**有料化は導入はしない。**

# 3-1. 第4次基本計画の基本方針

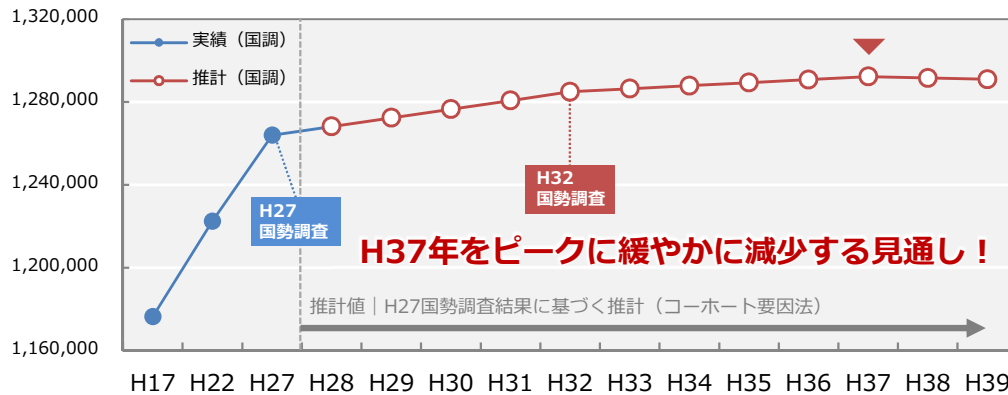
## ■ 将来人口の推計

【第4次計画におけるトレンド】

### 平成37年をピークに緩やかに減少

※ 平成27年国勢調査ベース

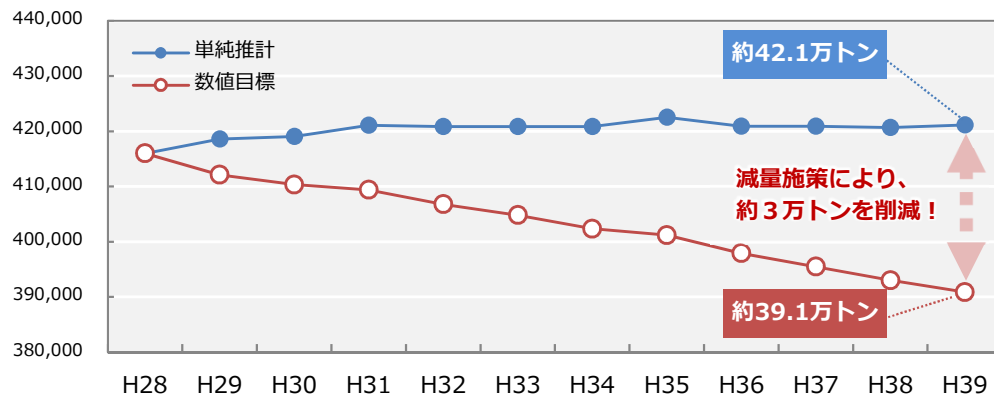
将来人口推計



## ■ 将来ごみ量の推計及び第4次基本計画の数値目標

- ① 単純推計 | 人口推計に基づく予測 ⇒ 約**42.1万トン**
- ② 数値目標 | ①に対し、施策を実施した場合 ⇒ 約**39.1万トン**  
(3万トン削減)

排出見込量（単純推計と数値目標）



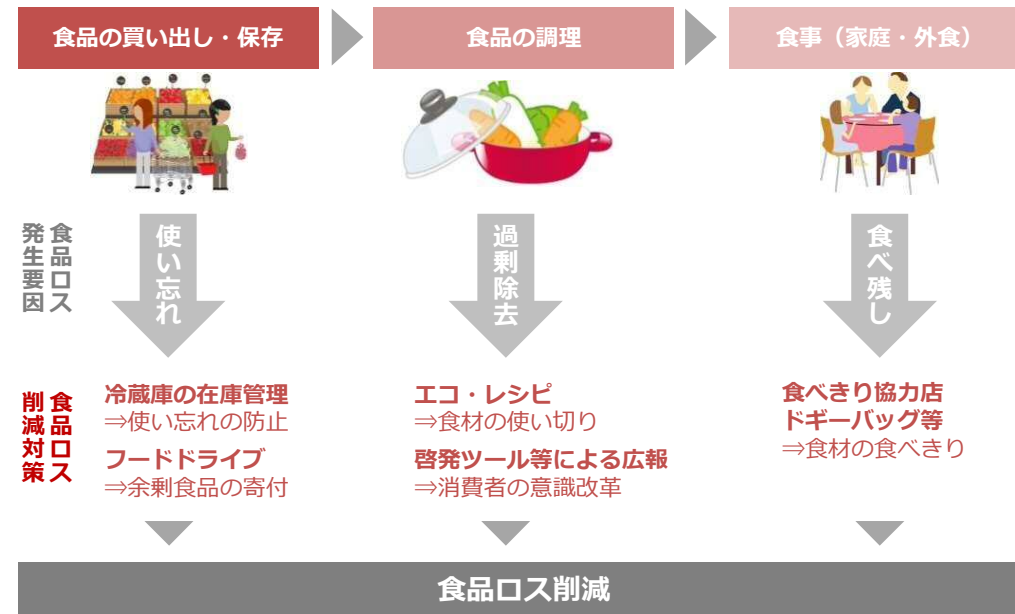
## ■ 第4次基本計画の基本方針

- 第3次基本計画の基本方針・基本施策は**継続**し、単純推計値から**約3万トン削減**することを目標とする。

## ■ 第4次基本計画の主要施策（抜粋）

- **食品ロス削減への取組**  
 【家庭系ごみ】 フードドライブ・エコレシピ等により食品ロス削減。  
 【事業系ごみ】 食べきり協力店・ドギーバッグ等により食品ロスを削減。
- **災害廃棄物対策**  
**災害廃棄物処理計画**を策定し、災害廃棄物の迅速・円滑かつ適正な処理に向けた対策を推進。

※ 食品ロス削減の対策イメージ



# 3-2. 第4次基本計画の施策体系

## ■ 基本目標

▶ ともに取り組み、参加する めぐるまち（循環型都市）“さいたまの創造”

## ■ 計画期間

▶ 平成30年度～平成39年度（10年間）  
※ 前期：H30～H34 後期：H35～H39

## ■ 施策体系

### 基本的方向性1 資源循環型社会“経済システム”の確立

#### 基本方針1 ごみの発生抑制・再使用策の推進（リデュース・リユース）

- ① 環境教育と啓発活動による意識改革の推進
- ② ごみの発生を抑制する活動の推進……【新規】食品ロス削減
- ③ 再使用及び再生品利用の推進

#### 基本方針2 資源回収の推進（リサイクル）

- ④ 市民が進めるリサイクル
- ⑤ 事業者が進めるリサイクル
- ⑥ 行政が進めるリサイクル

### 基本的方向性2 資源循環型社会“廃棄物処理システム”の確立

#### 基本方針1 ごみの適正処理の推進……【新規】災害廃棄物対策

- ① 収集運搬計画（効率的なごみ回収）
- ② 中間処理・最終処分計画（安全・適正なごみ処理）

#### 基本方針2 適正な施設整備

- ③ 施設整備の検討
  - ・新規焼却施設の整備及び既存施設の更新計画
  - ・資源化施設の整備計画
  - ・民間を活用したバイオマス系廃棄物処理システムの普及促進等

## ■ 数値目標

指標	基準年 (H28)	中間目標 (H34)	最終目標 (H39)
市民1人1日あたりの総排出量	891 g/人・日	856 g/人・日以下	827 g/人・日以下
		4 %減(H28比)	7 %減(H28比)
市民1人1日あたりの家庭系ごみ排出量 (資源物除く)	516 g/人・日	484 g/人・日以下	456 g/人・日以下
		6 %減(H28比)	12 %減(H28比)
最終処分比率	3.6 %	3.5 %以下	3.1 %以下

## ■ 計画のロードマップ



基本的方向性1に基づく施策の実施

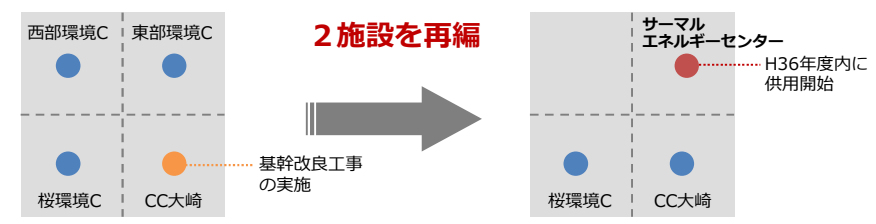
### 中間目標(H34)・最終目標(H39)の達成

- ① 市民1人1日あたりの総排出量
- ② 市民1人1日あたりの家庭系ごみの排出量（資源物除く）
- ③ 最終処分比率



合計能力1,430t/日

合計能力1,220t/日



# 4. 今後の進め方

## 1. 今後のスケジュール

- 平成29年12月 市議会（市民生活委員会）報告
- 平成30年 1月 パブリックコメントの実施
- 平成30年 3月 計画の策定・公表
- 平成30年 4月～ 第4次基本計画に基づく事業の開始

※ 検討フロー図

